平成 25 年度海外学生派遣事業　報告書

所属：複合科学研究科　極域科学専攻
学年：博士課程 2 年
氏名：丸尾文乃
海外派遣先国：ノルウェー王国
海外派遣先大学：The University Centre in Svalbard (UNIS)
海外派遣先大学所属：AB-326/AB-826 Arctic Plant Ecology
海外派遣期間：2013 年 6 月 30 日～8 月 10 日
報告年月日：2013 年 8 月 27 日

・海外派遣先大学について

The University Centre in Svalbard (UNIS)

世界で最も北に位置する高等教育機関および研究所であり、ノルウェー領スヴァールバル諸島の中のスピッツベルゲン島のロングヤービン（78° N）という町にある。UNIS は世界各国の大学および大学院生を対象にコースを開設している。コースの分野は Arctic Biology、Arctic Geology、Arctic Geophysics、Arctic Technology の 4 つがあり、期間も 1 カ月～半年と幅広くなっている。

私は Arctic Biology 分野の「Arctic Plant Ecology」というコースに参加した。

・海外派遣前の準備

今回のコースのことはトロムソ大学の Associate professor Elisabeth Cooper から教えていただいた。Dr. Cooper は昨年、国立極地研究所に滞在していた外国人研究者で、彼女と私はその滞在期間中に仲良くなった。Dr. Cooper 自身、コースの特別講師を務めるとのことであり、北極で世界最高峰の研究者からのレクチャーを受けれる機会だということでコースへの参加を決めた。コースに参加するためには、参加希望理由書と成績証明書と推薦書（指導教員から）を UNIS に提出する必要があった。参加希望者が多数であった場合は選考が行われるというシステムで、今回のコースでは選考が行われたが、私は運よく参加することになった。参加決定後は、自分の研究分野をまとめたレポートを提出した。

その他の手続きとして、航空券の手配と滞在先の手配があった。今回は UNIS が所有する学生寮に滞在できるというシステムであったので、そこに申し込みを行った。

ノルウェーはビザを用意する必要がなく、渡航にあたって特別に用意したことはなかった。

・海外派遣中の勉学・研究

最初の一週間はトロムソ大学の Dr. Cooper の野外調査に同行した。そこで、北極域に生育する植物の名前を覚えた。

二週間目から UNIS のコースが始まった。今回のコースのテーマは「Arctic Plant Ecology」であり、目的は参加した学生が環境変動に直面する北極の植物生態系の概要をグループごとのプロジェクトを通してより深く理解することである。コースのスケジュールは、第一週目はレクチャーおよびグループを作りグループごとに研究テーマを設定し研究計画を立てた。第二週目はクルーズでスピッツベルゲン島を周り野外調査を行い、グループごとにデータを集めた。第三週目は野外活動で得られたサンプルの処理と解析およびデータの解析を行った。第四週目はグループごとにレポートを書き提出した。最後はグループごとに研究成果を発表した。私は「Diversity of cryptogam functional types at multiple scales」というテーマのグループに参加し研究を行った。この研究テーマは私自身の博士論文の研究テーマ「生育環境に応じた蘚苔類の繁殖戦略のダイナミズムの解明」に近いものであり、研究手法では学ぶことが多くあった。また、グループで得られた研究結果は自分の研究仮説を証明する可能性があるものであり、北極域での自分の研究の良い予備実験となった。

コース終了後はノルウェー本土のトロムソという街に移動し、トロムソ大学の Dr. Cooper と自身の博士論文の研究の打ち合わせを行った。

・海外派遣中の勉学・研究以外の活動

ロングヤービンに滞在期間中は全て白夜であったため暗くなることが無かった。そのため、夕食後にハイキングに行くことがしばしばあった。ロングヤービンでは、町の外にはホッキョクグマと遭遇する可能性があり、ライフルの携帯が義務づけられている。そのため、UNIS では学生向けにライフルの貸し出しを行っており、ライフルが借りられた日にハイキングに行くことが多かった。

休日は友人と博物館に行ったり、土産を買ったりなど、観光をした。

コースには様々な国から学生が来ており、毎日日替わりで自国の料理をふるまうという流れができていたため、毎日の夕飯はパーティー状態であった。私も二回日本料理をふるまった。

また、町に唯一ある教会の教会アシスタントのおじさんと仲良くなったので、ミサのたびに教会に通った。教会の人々は異教徒である私にも優しく接してくれ、一緒にお茶をしながら談笑する時間を持つことができた。

トロムソでは、Dr. Cooper のご厚意で観光に連れて行ってもらった。ハイキングやドライブに行き、北極圏の自然を味わうことができた。

・海外派遣費用について

交通費だけで今回の海外派遣資金をオーバーしてしまうことが予想されたので、指導教員の科研費と合わせて費用を捻出した。ほぼ自炊で過ごしたが、ノルウェーでしかも北極の

離島ということで物価が高く生活費はかさんだ（物価は日本の 2 倍強である）。幸い、Dr. Cooper やロングヤービンでできた友人の協力によって食事をごちそうしていただける機会が多く食費を抑えることができた。

・海外派遣先での語学状況

英語は昔から苦手であった。渡航した直後は周りの英語がわからなく友人を作るのにも苦労した。しかし、友人ができてしまうと友人たちが通訳（もちろん英語による通訳である）してくれ、また私自身も度胸がつき英語をしゃべれるようになった。聞きとりのほうも途中からかなりできるようになり、最後は英語でディスカッションや飲み会で談笑などをできるようになった。もちろん、もっとしゃべれればもっと仲良くなれるな…と思う場面もしばしばあり悔しい思いもした。普段から英語を勉強することは重要であると切に感じた。

ただし、海外で苦労しながら英語を学ぶほうが上達するし、実際のコミュニケーション能力も向上することを感じた。

・海外派遣先で困ったこと

トロムソのホテル（B&B）でイギリスから来たという観光客に絡まれ、かなり失礼なことを聞かれた。だいたい何を言っているのか理解はできたので、毅然とした態度で立ち向かうことができたが、少し恐怖を感じた。

海外では、はっきりと「No」という必要がある。私は言うことができたが、言えないとトラブルに巻き込まれる可能性が高くなると思う。

・海外派遣を希望する後輩へアドバイス

日本は小さいです。世界は小さいかもしれないけど日本よりは大きいです。世界を知っているか知らないかは研究者になる上で大きな違いになると思います。私は今回の海外派遣で大きく成長できたと自負しています。海外に行けば、なにかしら得るものはあります。行かなければ、なにも得ることはできません。私は楽しみも苦労も伴いましたが、多くの経験や知識、外国研究者とのネットワークそしてかけがえのない友人を得ることができました。

語学や知らない世界への不安は尽きません。しかし、今回の派遣で思ったのは、言葉が話せても壊せない壁があって、言葉が話せなくても壊せる壁はあるということです。

さぁ世界へ飛び出しましょう！

最後にこのような機会を与えてくださった総研大の関係各位に心から感謝いたします。また親切にしていただき、いつもサポートしてくださったトロムソ大学の Associate professor Elisabeth Cooper そして UNIS の Profssor Ingibjörg Svala Jónsdóttir に厚くお礼申しあげます。

写真１　コース参加者の集合写真

写真２　船からの景色

写真３　調査地の景観

写真４　野外でのレクチャー

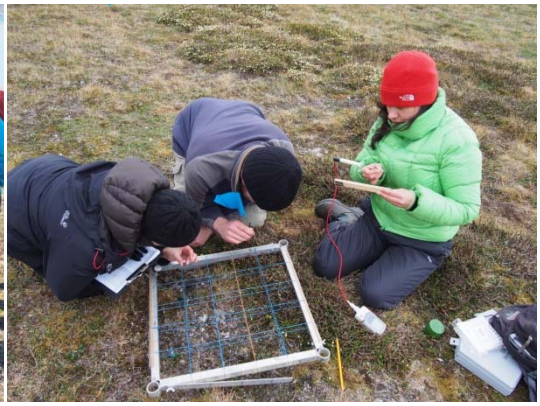

写真５　グループごとの調査

写真 6　私のグループメンバー

写真 7　実験室でサンプルの処理

写真 8　夕食

写真 9　Dr. Cooper と私